

第4 効率的かつ安定的な農業経営を営む者に対する農用地の利用の集積に関する目標その他農用地の効率的かつ総合的な利用に関する事項

1 効率的かつ安定的な農業経営を営む者に対する農用地の集積に関する目標

前記第2に掲げるこれらの効率的かつ安定的な農業経営を営む者に対する農用地の利用の集積に関する目標を将来の地域における農用地の利用に占めるシェア及び面的集積についての目標として示すと、概ね次に掲げる程度である。

○効率的かつ安定的な農業経営が地域における農用地の利用に占める面積のシェアの目標

香取市	予想農用地面積 (A)	利用集積の 目標面積 (B)	目標シェア (B / A × 100)	利用権設定 等面積
	11,100ha	7,000ha	63.0%	4,860ha

○効率的かつ安定的な農業経営が利用する農用地の面的集積についての目標

農地中間管理事業、農地中間管理機構の特例事業等の実施により効率的かつ安定的な農業経営における経営農地の面的集積の割合が高まるように努めるものとする。

(注) 1 「効率的かつ安定的な農業経営が地域の農用地の利用に占める面積シェアの目標」は、個別経営体、組織経営体の地域における農用地利用（基幹的農作業（水稲については耕起、代かき、田植え、収穫、その他の作目については耕起、播種、収穫及びこれらに準ずる作業）を3作業以上実施している農作業受託面積を含む。）面積のシェアの目標である。

2 目標年次はおおむね10年先とする。

3 利用権設定面積には、農地中間管理機構から借り受けた面積も含む。

2 その他農用地の効率的かつ総合的な利用に関する事項

(1) 農用地の利用状況及び営農活動の実態等の現状

香取市の平坦地においては、利根川等の河川流域に広がる水田地帯を中心に、水稻を主体とする土地利用型農業が盛んであり、認定農業者等への農地利用集積が進んできている。しかし、谷津田等を有する基盤整備が整っていない地域においては、農作業効率の悪さとあいまって、経営農地は分散化傾向にあり、担い手への集積が停滞ぎみである。

北総台地に広がる畑地帯においては、かんしょ、根菜類を中心とした畑作物の栽培が盛んで、担い手への集積と規模拡大が進んできているが、経営農地は、比較的分散化傾向で、農作業の効率化が図りきれていない。

(2) 今後の農地利用等の見通し及び将来の農地利用のビジョン

今後は更に農業従事者の高齢化が進んでいくことが確実で、このままでは担い手が受けきれない農地が出てくることが予想される。そのため、担い手育成及びそれらの者への農地の利用集積を推進するため、農地中間管理事業を重点的に推進するとともに、「地域計画」の策定を支援し、担い手確保及び育成に努める。

(3) 関係団体等との連携体制

香取市では、関係機関が有する農地の情報の共有化を目指し、地域の担い手への面的集積や耕作放棄地の解消を促進するため、関係各課、農業委員会、農業協同組合、土地改良区、農地中間管理機構等が連携して施策・事業等の推進を実施する。